

留学日誌 2005

2005年3月～2006年2月派遣交換留学生

信州大学人文学部 4年

村松咲穂里（日本語教育学専攻）

本稿は、派遣交換留学生である筆者が韓国カトリック大学留学中、指導教員のH先生宛に送った電子メールに、編集の手を加えたものである。韓国での生活、状況、同大学で実施されたインターンシップ海外日本語教育実習の模様などを、リアルタイムで報告している。

留学生活

2005年5月11日

H先生

こんにちは。お久しぶりです。村松です。久しくご報告申し上げずにいてすみませんでした。先生はお体の調子はいかがですか？まだ痛みますか？先生のお体のことはいつも心配しています。大切な体ですから、ここは焦らずゆっくりと、しっかりと回復されることを祈っております。

さて、カトリック大学での生活をご報告させていただきます。まず寄宿舎の生活ですが、先生もご存知のとおり4人で一部屋を使っています。二年生が一人、三年生が一人、そして私を含めた4年生が二人です。寄宿舎には定期的に集会や行事があり、今月は学園祭の期間に「オープンハウス」といって寄宿舎が一般の学生に公開される期間があります。その時部屋ごとに出し物をしたり、部屋を飾りつけたりします。そしてそれを部屋ごとに競い、高得点の部屋には賞金がでます。明日は防災訓練があります。

寄宿舎のいいところは韓国人と生活しながら、その文化を学ぶことができるということだと思います。韓国人の生活の様子を見ることができ、日本での生活と比較することができます。しかし、そう感じるまでは人それぞれ違って、寄宿舎の生活に慣れずに悩んでいる留学生もいます。特にこれまで家族と一緒に暮らしていた人はまだ慣れずにいるようです。私の場合は今まで一人暮らしだったので、はじめはとても戸惑いましたが、今はだいぶ慣れました。

次に学校での生活ですが、授業数5つ計15単位、と聴講が1つあります。授業についてはK先生やチューターと相談しながら決めました。単位互換についてはどの科目が考慮されるのかわからないので、とにかく専攻の授業とK先生の授

業を中心にとっています。卒業論文のことも考慮しながら、K先生のゼミ形式の授業で先生にご指導いただいております。私は日韓の断り表現の比較研究をしていきたいと考えています。前期に先行研究や理論的な部分を理解し、出来れば後期に韓国人のデータが取ればよいと思っています。そして帰国後日本人のデータをとり、それぞれ比較をするつもりです。

また、4月20日から27日（注：韓国の大学は3月から翌年2月が学年暦である）には中間試験がありました。今はひと段落して再来週予定されている学園祭の準備を始めています。私たちは模擬店で日本食の焼きうどんをする予定です。

今の私の留学生活は上記のようなものです。そのなかで今一番大変なことはやはり言語です。このことは留学するものにとって誰にでもあることだと理解していますが、コミュニケーションがうまくいかない時は本当に悔しく、無力感を感じます。しかし一年後成長している自分を信じて日々努力しています。

また、最近感じたことは留学生の帰国後に関してです。海外での留学を終え母国に帰国すると、留学前の生活が待っているわけですが、一年といっても環境は変わるものでなかなか再適応できないケースもあるように感じました。（留学生の話の聞くと）せっかく身につけた知識も自信をもって発揮できないようなこともあり、ストレスになることもあるようです。また、日本語を使う機会も減り、せっかくつけた知識も忘れていくといいます。私個人の考えとしては、交換学生が帰国した学生に日本語を話す機会を与えられれば、少しではありますがサポートできるのではないかと考えます。先生はどうお考えでしょうか？このことに関してはいろいろと複雑なこともあり、今回のメールではまとめきれませんので、整理できましたらまたメールいたします。

今回の報告は以上です。文が整理できずにつらつらと思うままに書いてしまいました。読みにくくてすみません。

最後になりましたが、日本語教育学専攻のみなさんによろしくお伝えください。元気にやっていますのでご安心をと。

また、夏休みに行われる言語文化研修についてなにかお手伝いできることがあればいつでも承ります。昨年信大への交換留学生Mさんとは少し話をして、Mさんに協力できることがあれば協力しますと話しました。また、来月メールいたします。では。

村松咲穂里 拝

来期の留学生について

2005年5月29日

H先生

村松です。お返事遅くなりまして申し訳ありません。私は元気に過ごしており

ます。

今度の日本からの交換留学生の件ですが、私も新しい交換留学生の力になりたいと考えておりますので、わからない事や心配な事などあればいつでも聞いてくださいとお伝えください。

こちらもだいぶ暑くなってきました。松本はどうですか？まだ朝夕は少し冷えるのではないのでしょうか？体調には十分お気をつけください。

村松咲穂里 拝

学園祭とオープンキャンパス

2005年6月5日

H先生

返信遅くなりまして申し訳ありません。パソコンの調子がおかしかったもので。

一緒に留学してきた信大のA君とO君の所属はアドレスと一緒にご連絡したと思いますが、A君は衣料学専攻、O君は国語国文学専攻です。活動形態としては、A君とO君は前期の時点では、専攻の科目は履修せず、後期から履修するつもりだそうです。今は、教養科目と必修科目(韓国語・韓国文化)、それと日本語や日本文化と関係する科目(翻訳の授業など)を履修しています。とにかく目標としては、先の韓国語を集中して学習し、後期はそれを生かして自分の専門分野の勉強をするようです。詳しい様子は彼等の方から先生に直接連絡するよう言っておりますので、お待ちください。

さて、私の活動報告ですが、先月5月24日にカトリック大学に信州大学副学長のI先生がいらっしゃいました。はじめてお会いしたのですが、気さくなお人柄で私たちに励ましの言葉を掛けてくださいました。あいさつの後、他校の先生方とも一緒に食事をし、午後はソウル市内を視察なさいました。

26、27日には、学校の学園祭がありました。一日目は寄宿舍のオープンハウスがあり、年に一度、一般に公開される日でした。前日までに、各部屋を清掃し、奇麗に飾り、どこの部屋が一番奇麗かという競技もありました。留学生はその日模擬店をし、クレープとパジョンとビールを売りました。私とA君とO君は、寄宿舍の公演に参加しました。内容は、部屋ごとにグループを作り、出し物をするというもので、私の部屋とA君の部屋が一緒になり、出し物をしました。(O君は違う組でした。)内容はコントと冬のソナタのパロディーと歌と踊りを混ぜたもので、見事一位を獲得し、賞金25万ウォン(注：日本円にして約25000円程度。)を貰いました。(O君の組は人気賞で5万ウォンを獲得しました。)

2日目は、私は日語日本文化の学生と一緒に、たこ焼きとかき氷を売りました。私は主に売る方を担当し、作る方には手をつけていませんでしたが、みんなよく作り方を調べて、とてもおいしいたこ焼きができました。焼き方もはじめてでし

たが上手にできていました。店の中心では昨年の信大への交換留学生Hさんがしっかりお店をまとめていました。素晴らしかったです。

この学園祭の経験を通して感じたことは、何でもその国の人たちと一緒に何かにすることの大切さです。大学の学園祭は日本もそうですが、参加したくないと思えば何の関わりなしに過ぎていくものです。特に、外国では言語の問題もありますし、わざわざ辛い場面に身を置くことはストレスに感じるのだと思います。私も実際、出し物の練習の時はどうしたらよいのか分からず、正直出たくない気持ちでいっぱいでした。でも、実際やって見ると、私がやることの意義や、韓国人の団結力や一つのことに傾ける情熱といったようなことを感じられて、とても充実した時間が送れたと思いました。そして、前よりもっと、私がここにいる意義を見出すことができたと思いました。そして、相手にとっても日本人である私を言葉以外の部分で理解することができる機会だったのではないのでしょうか。貴重な体験が出来たと思いました。

再来週からは、期末試験があります。勉強の方もがんばります。それが終われば夏休みです。夏休みの計画としては、語学院へ通うこと、ゼミの調査、旅行などを考えています。まだ詳しいところは未定ですが。

以上報告を終わります。また、月末に報告いたします。そちらの方はいかがですか。夏休みの日本文化研修の方は順調にしていますでしょうか。私の韓国の友達も参加するようで、日本のお祭りで浴衣を着ることを心待ちにしているそうです。第一回目が無事成功することを祈っています。それでは。

村松咲穂里 拝

訂正

2005年6月5日

H先生

訂正です。O君は人文学部国語国文文学専攻です。そして、A君は生活学部衣料学専攻です。申し訳ありませんでした。

村松咲穂里 拝

第一回日韓言語文化プログラムについて

2005年8月2日

H先生

こんにちは。お久しぶりです。しばらくご報告さし上げず申し訳ありませんでした。韓国は先週の雨から、朝夕だいぶ涼しくなり、過ごしやすい日々を過ごしています。日本はどうですか？まだまだ暑い日が続いているのでしょうか？

さて、いよいよ来週から、カトリック大学との第一回目の交流プログラムが信

州大学で始まるわけですが、準備の方は順調でしょうか？私もこちらで何かお手伝いできないかと考えていたのですが、こちらの学生方が主体的に取り組んでいるおかげで、特別お手伝いすることができませんでした。これは、こちらの学生がこの交流を意義あるものになりたいと考えている心の表れであると同時に、交流プログラム成功への第一歩ではないかと感じています。やはり両校の学生が主体的にアプローチすることが大事なのだと思います。昨日も日本語学科の学生と話す機会がございましたが、緊張であると同時に楽しみであると話してくれました。日本に行くことを楽しみにしている様子でした。

私も、去年まだ雪の積もる穂高町の神社で、先生とEさん、Yさん、私の4人でこの交流プログラムの成功をお祈りしたことを思い出し、懐かしく感じています。どうかこの企画が無事成功いたしますよう、遠い韓国より心からお祈り申し上げます。そして、期間の最中や前後は忙しくなりますので、どうかお体を大切にしてください。

ではこの辺りで。また、月末に夏休みの報告をいたします。
村松咲穂里拝

インターンシップ海外日本語教育実習前

2005年8月14日

H先生

こんにちは。村松です。まず、第一回の交流プログラムが無事終了したこと、大変うれしく感じております。お疲れ様でした。帰国した学生に感想を聞いたところ、大変なこともありました。そばうち、ホームステイ、松本ぼんぼんなど日本の文化を直接体験ができたことが、なによりよかったといっていました。そして、日本にたくさんの友達ができてうれしかったと話してくれました。

その話を聞き本当によかったなと思いました。韓国で日本語や日本文化を熱心に学習している学生たちですから、実際に日本に行くことができたことのよろこびは大変大きなものだったのではないのでしょうか。そして、そこでたくさんの日本人や日本文化に触れることにより、それまでの知識が実体験を通じて、本当に自分のものとなったのではないかと思います。

今回のプログラムの全容は、残念ながらわかりませんが、うまくいった点も反省点すべき点もあったと思います。反省点は次の成功へのステップですから、しっかり反省して第2回に繋げたいですね。そしてうまくいった点は自信へと繋げていきたいですね。今回のプログラムについてはまた事後研修があるのでしょうか？もし、研修全体が分かるような資料を作成するのでありましたら、お手数ですが私の方にも一部お送りください。

さて、今回メールいたしましたのは、もう一つ理由があります。それは、海外

日本語教育実習についてです。後期から始まるのですが、日程などの詳細がわからないので教えていただけませんか。またどのように進めていけばいいのでしょうか。S先生に事前に指導をいただきたいと思っているのですが、まずはH先生にご相談しようと思ひまして、メールいたしました。お忙しいところ申し訳ありませんがご指導ください。

明日は15日終戦記念日ですね。韓国では「光復節」、独立記念日です。日本では終戦の日ですが、韓国では解放の日です。この間、タプコル公園(3・1運動発祥地)と西大門刑務所に行ってきました。日本ではなかなか知ることのできない、韓国側からの視線で戦争を考える機会となりました。日常的には韓国でふつうに暮らし、韓国人とふつうに生活しているわけですが、明日は一度ゆっくり日本と韓国の関係について考えてみたいです。では。

村松咲穂里拝

日本語教育実習終了報告

2005年10月5日

H先生

こんにちは、村松です。韓国は10月に入って急に寒くなりました。日本はどうですか。先生はお元気でしょうか。

インターンシップ海外日本語教育実習が先月末に無事終了いたしましたことをご報告いたします。先生に一度ご連絡を差し上げようと思っていたのですが、実習期間中は想像以上に忙しく、ひと段落ついてからゆっくりご報告いたそうと判断し、今こうしてメールを書いています。お許してください。

実習期間中はS先生を始め、日本語日本文化学科の先生方に手厚くご指導いただき、本当に実り多き実習であったと感じています。一ヶ月間という短い期間でしたが、授業見学、教壇実習などの実際の教室でおこなわれることや、それ以外の様々な仕事や生活の様子まで見させていただき、職業としての日本語教師とはどのようなものなのかといったことがわかりました。私の中で漠然とあった日本語教師の姿が、はっきりと輪郭を帯びて見えるようでした。実習の中で、特に教壇実習に関しては、本当に反省する点が多く、学生が満足できたかという点では残念ですが自信がありません。しかし確実に授業に対する考え方や観点は変わり、自己評価、自己反省はできるようになりました。問題点はどこなのかといったことが分かることは、どこを改善すればよいのかということですから、これから教壇に立つ機会がありましたら、必ず克服できるよう努力したいと思っています。そして常に反省をしながらさらによりよい授業をめざしてがんばりたいです。

実習で学んだことがたくさんありすぎて、今ここですべて書くことは難しいです。また、メールいたします。ひとまず2005年の海外日本語教育実習が無事

終了したこと、こころよく受け入れてくださったカトリック大学の先生方、そしてこの実習に私を送り出していただいたH先生に感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。

今週は明日とあさってに日本語日本文化学科の学術祭があります。去年の韓国言語文化研修が思い出されますね。あの時は本当に紅葉がきれいな中、学術祭が行われました。今年はまだ少ししか葉の色が変わらず去年とは景色がすこし違います。しかし、学生の日本語に対する意欲は去年にも劣りません。みんな本当に熱心に準備をしたり練習をしたりしています。見学をするのがとても楽しみです。

では、またメールします。だんだん寒くなりますのでどうかお体にはお気をつけください。また、日本語教育学専攻のみなさんにもよろしくお伝えください。村松咲穂里拝

学生生活終了報告

2005年12月26日

H先生

こんにちは。ご無沙汰しておりました。連絡が遅くなってしまっで大変申し訳ありません。こちらはだいぶ寒く、手袋がなければ外に出られないくらい寒くなりましたが、松本はどうですか。今年は雪がよく降っているそうですね。体調はいかがですか。風邪などひいてないでしょうか。

さて、カトリック大学での学校生活は12月の期末テストを最後にすべて終了いたしました。そして最後に、交換留学生の留学報告会を国際交流課のサポートのもと、自分たちで企画・運営し成功させることができました。この試みは今年が初のことでありまして、今後継続して行われればという気持ちも込めて留学生を中心に開催しました。

本当に長いようで短かった学校生活でした。後期は特に日本語教育実習もあり、時間があっというまに過ぎていってしまったように思います。考えたらあと、2ヶ月弱で帰国です。本当に早いです。一緒に来た留学生の中にはすでに帰国した学生もいて、自分の帰国がいよいよ迫っているのだなということをひしひしと感じております。

この1年の留学生生活は本当に貴重な体験の連続でした。異国の地で生活し勉強することが、すばらしいことでありまた辛いことでもあるということを実感しました。言葉にするのはなかなか難しく、今すべてを表現することはできません。ただ一つ言いたいことは、サポートしてくださった周囲の方々に感謝の気持ちを伝えたいということです。日本から応援してくれた家族や友達、韓国でいろいろ助けてくれたドウミ（注：チューター）のHさん、そしてK先生、S先生を始め私に日本語教育の生きた現場を見せてくださり、指導してくださった日本語学科

の先生方。そして最後に私を交換留学生として送り出してくださったH先生に心から感謝しております。また他学校からの交換留学生や韓国でできたたくさんの友達など、いい出会いに恵まれたことに本当に感謝しています。残り少ない留学生生活ですが、悔いの残らないよう一日一日を大切に生きていきたいと思います。

最後に帰国に関してですが、2月の中旬を予定しています。おそらく送迎のことも考えて日曜日になるかと思います。また値段とも相談してなるべく安い日にしようかと思っています。まだ、確定しておりませんか、2月の中旬ということでご了解いたなければと思います。

先生、体調には十分気をつけてください。年末年始はいろいろとあわただしくなりますがお体を大切に。そしてよい年をお迎えください。では。

村松咲穂里拝

帰国報告

2006年2月14日

H先生

こんにちは。先生お元気ですか。私は12日の飛行機で無事に日本に帰国いたしました。O君とA君は11日に帰国しました。

約1年間の留学生生活を終え、日本の空気、家族と過ごす時間がとても貴重なもののような気がして、無事に帰ってきて本当によかったなと思っています。2月は山梨のほうで休んだり、荷物を整理したり、挨拶にまわったりしたいと思っています。先生にもはやくお会いしたいです。

では、帰国報告まで。

日本は韓国にくらべたらだいぶ温かいですね。松本はどうですか。風邪には気をつけてください。あと、今度留学するKさんですが、韓国にいるときから頻繁に連絡をとって大学の状況などの話はしておりました。出国の27日まで、また出国後も私ができる範囲で協力するつもりですのでご安心ください。

村松咲穂里拝

